

「古着回収はどうあるべきか？」連続講座のご案内

第二回 「古着」と開発途上国の暮らし



今、日本で回収されている古着の多くが、海外に輸出されています。特に、21世紀に入ってから先進国から途上国に輸出される古着の量は、飛躍的に増加しているそうです。

自国の繊維産業を守るために古着の輸入を禁止している国もありますが、今、日本の古着回収業界にとっても、古着輸出は大きな割合を占めています。実際に古着の輸出は、開発途上国の暮らしに、どのような影響を与えているのでしょうか？

そこで、持続可能な消費研究会 連続講座第二回目は、古着について研究していらっしゃるアジア経済研究所の福西隆弘さんを講師にお迎えして、お話を伺いたいと思います。

ぜひ、皆様ご参加ください。

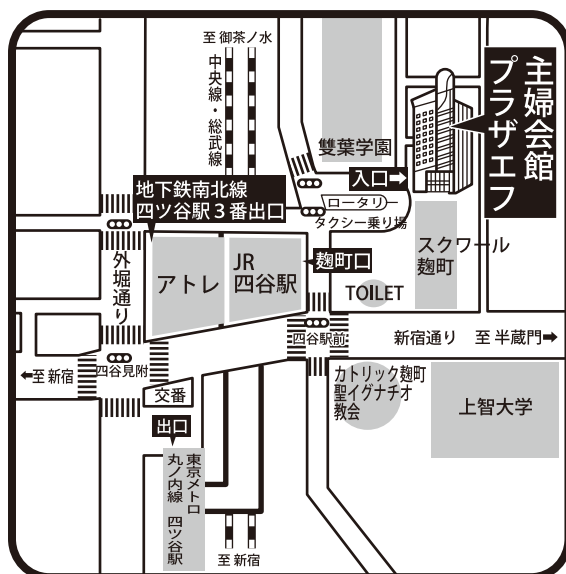
●福西隆弘氏プロフィール

サブサハラ・アフリカ地域の企業と労働者を中心に研究している。縫製産業とそこで働く労働者について長く研究し、アフリカにおける古着にも関心がある。古着に関する著作として、「リユース品貿易の実態：古着の国際貿易を事例に」小島道一編『国際リユースと発展途上国：越境する中古品取引』アジア経済研究所（2014年）がある。

2017年

日時 **11月15日(水)** 18:30 ~ 20:30

- 場所：主婦会館プラザエフ3階会議室（JR四ツ谷駅麹町口徒歩1分、東京メトロ南北線・丸ノ内線四ツ谷駅徒歩3分）
- 講師：福西 隆弘氏
（アジア経済研究所地域研究センターアフリカ研究グループ 研究グループ長）
- 参加費：無料
- 申込み：資料の準備の予定がありますので、参加氏名、ご所属、当日の連絡先を明記の上、下記までお申し込みください。
- 申し込み先：主婦連合会
☎03-3265-8121、fax03-3221-7864、e-mail:info@shufuren.net



主催：持続可能な消費研究会、(一社)地域資源発掘ASA、主婦連合会、(一財)主婦会館

この講座は、地球環境基金の助成で実施されます。